

12月といえばクリスマス。今回はイギリスの人気作家ロバート・ウェストールのクリスマス物語をご紹介します。

『クリスマスの猫』

ロバート・ウェストール/作 ジョン・ロレンス/絵 坂崎 麻子/訳

徳間書店 1994年 1155円 よみもの

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★★★★ 中学生★★☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

おばあさんが孫に語るクリスマス物語。

1934年の冬、キャロラインは、おじさんの家に預けられていました。おじさんは牧師で優しい人でしたが、気が弱く、性悪な家政婦のいいなり。おかげで、街の人からは距離を置かれ、教会には誰も姿を見せません。

そんな中、キャロラインは赤ちゃんがおなかにいる猫を見つけます。この猫が性悪な家政婦ミス・ブリンドリーに見つかったらどうなるでしょう？キャロラインは友達になった近所の少年ボビーと一緒になんとか猫を守ろうとするのですが・・・。

上流階級なのに男の子のような性格のキャロラインと、下町に子どもらしく、貧しいけれど優しく誇り高い少年ボビー。二人の忘れられないクリスマスの出来事です。

<子どもに手渡すときのポイント>

壮大なファンタジーとか、ハラハラドキドキのサスペンスではありませんが、心がほっこりするクリスマス物語です。さらっと読めますが、物語の裏側には社会的な背景やそれを乗り越えていく力強い登場人物たちが描かれています。ぜひ、小学校高学年以上の子どもたちにぜひ手渡してほしい1冊です。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

子ども図書館 重村 さやか